

エデンの園: Garden of Eden

主なる神は、大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そして、人は生きるものとなった。主なる神は東のエデンに一つの園を設けて、そこに神の似姿に造った人を置かれた。また主なる神は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土からはえさせ、園の中央に命の木と、善悪を知る木とを植えられた。エデンから一つの川が流れ出て園を潤し、園から分れて四つの川となった。最初の川はピソン、金のあるハビラの全地をめぐる、金は良く、またブドラクと、しまめのうとを産出した。二番目の川の名はギホン、クシュの全地をめぐる。三番目の川はヒデケル、アッシュルの東を流れる。四番目の川はユフラテである。

主なる神は人を連れてエデンの園に置き、そこを耕させ、守らせられた。主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよい。ただし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを食べると、必ず死ぬ」。そこで主なる神は言われた、「人が独りでいるのは良くない。彼にふさわしい助け手を造ろう」。そして主なる神は地のすべての獣と、空のすべての鳥とを造り、人のところへ連れてきた。彼が生き物にどんな名をつけるか、生き物を何と呼ぶか、それがすべて生き物の名となった。

それで人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけた。しかし、人にはふさわしい助け手が見つからなかった。そこで主なる神は人を深く眠らせ、眠っている間に、その肋骨の一本を取って、その所を肉でふさがれ、人から取った肋骨で女を造り、人のところへ連れて来た。そのとき、人は言った。「今や、これはわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。男から取ったものだから、彼女を女と名づけよう」。それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となる。人とその妻は裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。

コメント: 神は人に息を吹き込まれました。前回の創造の記事においては、神に似た者として創造されたと記されています。息を吹き込まれたとは、肉体と霊のことを言っていると思われます。ヨハネ 4 章 24 節【神は霊です。】神に似た者とは、人は霊を持っていると考えられます。

神は人をエデンの園に置き、すべての生きる獣と鳥を彼のところに連れてきて名前を付けさせました。その園には良い実をならせる木があり、人はそれを、いつでも、食べたい時に食べることができました。しかし、神はそこに、食べてはならない木として、善悪を知る木の実をならせました。神は、なぜ食べてはならない木を植えられたのでしょうか。すべてのことにおいて、自由を与えておられたのに、一つだけ禁止命令を定められました。

神は女を創造して、人のところに連れて来られました。ここで、男と女の関係が生じます。はじめに男が創造され、その後に助け手として女が創造されました。ここだけを読むと、男が主であり、女が従であるかのように見えます。しかし新約聖書では、エペソ 5 章【28 同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。29 いまだかつて自分の身を憎んだ人はいません。むしろ、それを養い育てます。キリストも教会に対してそのようになさるのです。31 「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」33 それはそれとして、あなたがたもそれぞれ、自分の妻を自分と同じように愛しなさい。妻もまた、自分の夫を敬いなさい。】神は、男と女を創造しました。それは旧約聖書に書かれていますが、その目的は新約聖書から知ることができます。旧約で預言されていることが、新約で成就するとは、このことを言っているのではないのでしょうか。しかし、昔も今も、夫婦の破綻が多く発生して、聖書のことばがないがしろにされています。

また、男と女の関係において、性の多様性が叫ばれ、問題視されています。果たして、神から与えられた聖書の中に、その正当性を見出すことができるでしょうか。